

経済研究所応用経済学ワークショップ、2016年5月27日

1800年前後のマレー海域の海賊とそのポリティカルエコノミー

経済学部・太田淳

本報告は、1780年頃から1840年頃に海賊活動がマレー海域で特に活発であった背景と要因を考察する。まず背景として指摘できるのは、18世紀半ばから中国の経済先進地域において、東南アジア産の森林産物や海産物の需要が高まっていたことである。これらの産品はマレー諸島一帯に広がっていたため、商人は人口希薄な地域にも集荷に出かけ、彼らの定住地が形成された。もともとマレー世界には中央の政治争いに敗れた勢力が従者ととも別地域に移住し、商業定住地を作って貿易を振興して、中央政府支配者に対する抵抗勢力となる伝統があった。こうした勢力もまた中国市場向け森林産物・海産物の集荷と貿易に従事したこともあって、これらの貿易にはしばしば暴力が用いられた。貿易を重視する国家は、こうした商業軍事集団を積極的に誘致し、彼らに居住地や免税の特権を与える一方で、貿易の促進と有事における軍事力の提供を求めた。このように商業軍事集団が多くの地域で国家と協力関係を結んだことから、彼らの海賊活動が各地で活発化した。

CSH256A-W